

考試科目	日文	系所別	外文所	考試時間	2月19日(日)第二節
------	----	-----	-----	------	-------------

3111F

日翻中(每題廿五分)

1. トランプ時代の米国はそれ以前の米国と全く違う。地球規模の経済発展を目指すパートナーになるとは考えにくい。対中国と対韓国を合わせた日本の輸出額は対米のそれをしのぐ。近隣国との緊密化は、安全保障面でも利益となるだろう。安倍首相は参院での答弁で、「トランプ氏も自由で公正な貿易の重要性は認識していると考えている」と述べた。6年近い難交渉の末、やっと達した合意を、就任4日目にして一人で破壊した相手をなぜ擁護するのか、理解に苦しむ。
2. 韓国も現在、北朝鮮に厳しい対応をとってきた朴槿恵大統領が自らの醜聞によって国会で弾劾訴追され、職務停止状態にある。任期前の退陣は避けられない見通しだ。次期大統領選では、北朝鮮に融和的な野党候補が優勢とされる。野党内で中国が反対するTHAAD配備計画を見直すべきだとの意見が出ているのも気がかりだ。肝心の米韓の連携が揺らぐようでは、北朝鮮に足元を見られるだけだ。米韓とも今回の合意を堅持し、THAAD配備を含めて着実に履行していくよう求めたい。
3. 新しい映像表現を可能にする仮想現実(VR)や拡張現実(AR)といった技術が注目を集めている。使いみちは幅広く、産業への奥深い影響が予想される。革新の担い手となって市場を創り出す戦略が、日本企業は必要だ。VRは主にゴーグル型の端末を使い臨場感ある映像を実現する。一方のARは現実の空間にデジタル情報を重ねて表示する技術だ。対応する機器の世界市場は2020年代半ばに10兆円を超えるとの試算がある。今のテレビやノートパソコンに匹敵する規模だ。

備 註

- 一、作答於試題上者，不予計分。
- 二、試題請隨卷繳交。

考試科目	日文	系所別	外交所	考試時間	2月19日(日)第二節
------	----	-----	-----	------	-------------

4. オバマ米政権は、アジア重視の「リバランス」政策を進め、日本やフィリピン、オーストラリアとの同盟のネットワークを強化する方針をとってきた。「米国第一」を掲げるトランプ氏の外交政策の全体像は不透明だ。とりわけアジア政策をどう位置付けるかは注視が必要だ。法の支配や自由、民主主義といった普遍的価値観の共有は、独裁国家の中国に結束して対抗するうえで欠かせない。トランプ氏の口からは、まだこの点について明確な言葉は聞かれないが、価値観に基づく外交を日米が主導すべきことに変わりはあるまい。



備

註

- 一、作答於試題上者，不予計分。
- 二、試題請隨卷繳交。